

# すみよし





## 目 次



☆	<a href="#">聖句</a>	YS	・・・	1
☆	<a href="#">巻頭言</a>	赤波江 豊神父	・・・	2
☆	<a href="#">コーナン神父叙階 60周年</a>	MT	・・・	3
☆	<a href="#">待降節黙想会</a>	崔 周永神父	・・・	4-6
☆	<a href="#">クリスマスに思うこと</a>	金 台根神父	・・・	7
☆	<a href="#">住吉教会 2021年</a>		・・・	8-24
	<a href="#">成人式を迎えて</a>	NW		
	<a href="#">堅信式・他</a>			
☆	<a href="#">追悼 オマリー神父</a>	TS SS	・・・	25-26
☆	<a href="#">各チーム活動報告</a>		・・・	27-32
☆	<a href="#">Let It Be</a>		・・・	33-34
☆	<a href="#">図書紹介</a>		・・・	35
☆	(信徒動静)			
☆	<a href="#">教会日誌</a>		・・・	37
☆	<a href="#">後記</a>		・・・	38

題字 JY

表紙絵 教会学校の子供たち



「すみよし電子版」はカトリック住吉教会 HP にフルカラーで掲載されています。左記二次元コードからのアクセスもご利用下さい。

聖句

見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。

その名はインマヌエルとよばれる。

この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。

マタイによる福音書1章23節

「いと高きところには栄光、神にあれ、

地には平和、御心に適う人にあれ。」

ルカによる福音書 2 章14節

選:セシリア YS

聖書:新共同訳



目次

## 《巻頭言》

### クリスマスおめでとうございます

赤波江 豊神父

皆さん今年は日本で何回目のクリスマスかご存じですか。私がこう尋ねると大抵の人は「えっ?」と思われます。というのは、ザビエルが1549年8月15日に来日し、その年日本のどこかでクリスマスのミサをささげたことでしょう。これが日本での最初のクリスマスでした。ですから今年2021年は、それから数えて472回目のクリスマスということになるわけです。

私が卒業した東京カトリック神学院（旧東京大神学校）の初代院長はフランス人宣教師のカンドー神父で、偉大な宣教師でしたが、若い時第一次世界大戦に従軍しなければならず、戦地でクリスマスを迎えました。しかし夜になっても続く戦闘と寒さで疲れ果てながらも、がむしゃらに数十メートル先のドイツ軍の塹壕（ざんごう）めがけて手りゅう弾を投げ続けていたのです。そして誰もが故郷のクリスマスのことを思っていたのです。その時一人の兵士が「今頃家ではみんなでクリスマスをお祝いしているのだろうか」とつぶやいたところ、横にいた兵士がいきなり「あめのみつかいの うたごえひびく…」と歌い出しました。それを聴いた他の兵士もつられて歌い出し、しまいには塹壕の中が大合唱になってしまったのです。その後ドイツ軍の塹壕がしばらく静かになったと思ったら、張りのあるきれいな何部合唱かでクリスマスの歌で応戦してきました。こちらが負けるものかと氣勢を上げて歌えば、相手もまた歯切れのいいドイツ語で応戦する。相手の合唱に耳を傾けながらも、次の歌を用意し、相手が終わったら今度はこっちだと、お互い思い出す限りの聖歌を、天にも響け、地にも響けと歌い尽くしたとき、お互い手りゅう弾のことなどすっかり忘れ、何とない気持ちで朝までぐっすり寝てしまったのです。それは何年も味わったことのない静かな眠りで、相手の寝こみを襲うことなど決してあり得ないとお互いが確信した眠りでした。それこそ、一家族伝来の祭りを共に祝った兄弟のように、同じ歌の余韻につつまれて、やすらかに眠ったのであった、とカンドー神父は書き記しています。

この戦争の夜、わずか一晚とは言え、安らかな眠りのプレゼントを与えてくれたのは、他ならぬイエス・キリストだったのでした。クリスマスが訪れる度に世界中の人の心に光が差し込みます。特にパンデミックで苦しむ世界中の人たちにイエス・キリストが希望の光をプレゼントして下さいますように。



目次

## コーナン神父様の叙階60周年と お誕生日の記念ミサに与かって思い出すこと

MT

コーナン神父様との出会いは私が高校生の頃、ベロー神父様が主任で、助任司祭として住吉教会に来られた時からなので、もう55年余りになります。

ちょうど第二バチカン公会議が終わって、御ミサの形式が大きく変わって、ラテン語から日本語へ、聖歌もカトリック聖歌集から典礼聖歌の導入をし始めた時期で、歌いにくい聖歌になじめない私は御ミサの聖歌を決めるのに聖歌集からばかり選んでいたもので、「Mちゃんはマリア様の歌ばかり決めて・・・」とたびたび叱られていました。でも7時の御ミサの後、夏休みなどは、一緒に朝ご飯を食べて、その頃流行りだしたボウリングに車を連ねて芦屋まで何度も行きました。いつも私達、青年達と賑やかに過ぎて下さっていて、コーナン神父様にお会いするとその頃の事を楽しそうに話して下さいます。

施設にお入りになってなかなかお会いできませんが、又お会い出来たらコーナン神父様の関西弁をお聞きしたいと思います。



～司祭の叙階60周年にあたって～

あなたの祈りと愛に感謝し、私たちの主イエス・キリストの平和があなたと共にありますように。

ミシェル・コーナン神父 パリ外国宣教会



目次

## 《待降節黙想会》

待降節第一主日の11月28日、<sup>チェ ジュヨン</sup>崔 周永神父が待降節黙想会の指導をしてくださいました。



<sup>チェ ジュヨン</sup>ベネディクト崔 周永神父は、ローマでの留学を終えられ、現在は大阪大司教区事務局におられます。

### 講話 ～救済的視点で捉える時間感覚～

<sup>チェ ジュヨン</sup>崔 周永神父

#### 導入；

今日の福音（ルカ 21・25－28, 34－36）その終末論的な意味合い、誰が来るのか、つまり、誰を待つのか、と。

救い主；イエス・キリスト（しかし、赤ちゃんとして、権力持ちの大人ではなく）その意味は？説得するため、与ってもらうため、何に？神の国。

神の国とは？既に来ていて、まだ来てないもの、イエスキリストによってもたらされ、わたし達にも、その任務が与えられている。つまり、築いていく、完成に向かっているの道りにわたし達の役割がある。完成となると、始めのことも考え得る。創世記の創造、黙示録での最後の審判。今日の福音が、その黙示録的な展望で書かれたもの、つまり、世界の完成、終わり。こういった完成に向かっていく、神の国を生きるキリスト者にとって時間というものは？

#### 展開；

始めと終わりと言うと、流れていく、一筋のように捉えがちだが、神の国を生きる、参与する者としての時間は、神様とそして、以前生きていて、今は亡くなっている方々とも繋がっているとも言えるのではないか？何故なら、神様の存在というのは、始めもなく、終わりもない永遠であって、わたし達が神様の中にいるのなら、神様の時間にも繋がっているのです、わたし達のこの人生に限っての、例えば、昭和何年から、令和何年までという決まった時間をはるかに超えて、信仰の父アブラハムにまで繋がりを、この考えをより拡大して見ると、まだ生まれてもいない人々とも繋がっていることも考え得るのでは？

目次

これは、一見、哲学的な話に聞こえますが、神学的な根拠として、例えば、ごミサの中で捧げる聖餐礼、まさに、イエス様が弟子たちと共にしておられた最後の晩餐、その時と結ばれているからです。再現でもなく、その時間に繋がっているわけです。

ここで、一つの疑問、あるいは、質問です。

この時間感覚というテーマを何故、選んだのでしょうか、私は？

思われるかもしれません。自分というものが生まれて、赤ちゃんから成長して、沢山のことを学び、成長しては、働き、そして、引退して、年を取っていく。最後に亡くなっていく。間違いなく、生まれには、死が付きものです。

これはどうでしょうか、このような考え方は？

朝、わたし達は新しく生まれ、日中を通して、成長し、働き、そして、夜、眠る時に死んでいく。こういう考え方は、珍しいものではなく、わたし達キリスト者の祈りに既に表現されています、特に、聖務日課のお祈りにこの精神が深く根付いている。

じゃあ、このように、一日をまるで、人生の全てのように生きていくのが、キリスト者の生き方、態度だとすると、他の考え方はないのでしょうか？

あります。先のが、新しい生まれ、言い換えると復活と死の、繰り返しだとすると、わたし達の人生は、自分だけのものではなく、先、申し上げました、前の人々と、かつ、後ろの人々とも繋がっているという考え方です。繋がっているとすると、信仰という捉え方になりますが、彼らの願いや希望、悲しみや苦しみまでも、わたし達と繋がっていることでしょうか。繰り返しですが、何故、こう言えるのか、と。神様に、わたし達が結ばれているからです。となると、結局、わたし達は、神様との結びにより、神様の中にいる全ての人々と繋がっているのです。繋がる事が出来るのです、信仰を通してです。

この繋がりは一体どういう意味なのでしょう？

## 具体的例

留学の体験；

大阪からローマ、ローマから Perugia に、その間のエピソード（バス、列車など）Perugia で感じていた寂しさ、独りぼっち感、それを乗り越えられたのは、一緒に繋がっている、新しい感覚。スマホも持たずで、パソコンの電源コードを忘れてしまい、パソコンの電池もきれかけ。言葉にも困り、何処に何があるのか、どうすれば良いのかも分からない時期。私は、神様と、そして、応援してくれている大阪の方々とは繋がっているのだ、と、神様の中で、です。

お世話になっていた Casa del clero, つまり、司祭の家は、500年も前に建てられた建物で、日本で言うと、あの豊臣秀吉が生きていた時と同世代のもので、今も使っています。石造りの、しっかりした建物で、Perugia 教区のカテドラルが、そして、Casa Del clero が、司教館が繋がっています。私の部屋の床は、石でモザイクが施されていて、大変綺麗。平日にはイタリア語学校に通い、夜は宿題をやる。

主日は、隣の、カテドラルで全くと言っても良いくらい、全然分からないイタリア語のごミサに与っていました。高い天井に響いていく、イタリア人の朗読者たちの、とても響きの良い朗読を聞きながら、自分がキリスト者で、しかも、司祭で、勉強のために来ているのだ、と気づかされたりしました。そして、また勉強、宿題、意味の分からない言葉でのごミサへ与る。このような生活の続く中、ふと気づいたら、私は一所懸命、掃除を、とりわけ、部屋の床の掃除をしていました、とても丁寧に、です。

その掃除のやり方は、ほうき（箒）を使ってではなく、素手で床の誇りを綺麗に取っていたのでした。500年も前の、今は亡くなっている職人さんがつくった立派な模様の石床を綺麗に手で拭きながら、私は、独りぼっちの夜を過ごしていたのでした。

それは、確か、寂しさのあまりの行動だったことは間違いないでしょうが、しかしやっている内に、何か、とても穏やかな落ち着き、心の平和を感じました。その理由は、とうの昔にこの建物を建てた人々との触れ合い、出会いによるもの。其処で、私は、今置かれている時間を、神様の中で、神様に捧げ、そして、大阪の皆さんと繋がっていましたし、今気づいたのですが、その素手でもっての掃除は、自分の心を綺麗にしてくれたものでもあること、さらに、神様が私の心を拭いてくださったのだと気づかされました。

最後に、今から10年も前、2009年秋頃、前大司教の池長大司教様との面談のため大阪に来て、まだ日本語の出来なかったので、通訳してもらいながら、一所懸命語っていました。司祭になりたい、と。その場で、大司教様は、あなたを大阪の神学生として受け入れますという答えをいただき、あの時お世話になっていた方のお家のある魚崎駅に降りて、近くの、ある綺麗な川べりを何回も歩いていました。今朝、此処に来て分かったのですが、あの川は住吉川だったのでした。ここでもう一度、皆さまとの繋がりを深く感じるわけです。

日本語の勉強、神学校入学、そして、叙階、一年間小教区で働き、留学、今、ここに皆さんと共におります。年を取っていて、大病も患った私が、司祭になれたのも、素晴らしい留学の経験まで出来たのも、神様の中でわたし達は繋がっていて、ただ、生きて死んでしまうのではなく、信仰を通して、時間も超えて繋がっていることの、小さいながらの微かな、と思うわけです。

イエス様のご誕生を切に待ちに待つ待降節が始まりました。赤ちゃんの姿で来られる、イエス様は、わたし達を説得するために来られるのだと申しあげました。イエス様のあの優しい誘いにどのように応え、どんな関係を深めていけば良いのでしょうか。

\*\*\*\*\*

例年黙想会の記事は、広報編集部がテープ起こしをしてまとめるのですが、「それでは大変でしょう」と崔神父様が講話の構成の為に書きになった原稿を送って下さいました。感謝いたします。

## 《 クリスマスに思うこと 》

キム テゴン  
金 台根神父

クリスマスが近づくと、思い出す話があります。それは「貧しい人の父」と呼ばれて尊敬されたフランス人司祭、アベ・ピエール神父様の幼い頃のお話です。



キム テゴン  
ベトロ金 台根神父は、日本語の勉強のために来日され、神戸中央教会にお住まいです。住吉教会でも何度かミサを司式してくださいました。

神父様が幼い頃、毎年待降節の時期になると、神父様のお父さんはリビングに大きなクリスマスツリーと飼葉桶をかざり、家族全員にそれぞれ違う動物の人形をくれたそうです。それから毎晩家族が集まって、その日に自分がした良い行いを話し合い、発表された良い行いが家族みんなの気に入ったら、その子の人形を飼葉桶に寝かされている幼児イエス様に一歩近づけるように移動させてくれた、というのです。そしてクリスマスの夜までに、幼子イエス様に一番近づけた子に、お父さんが一番大きなプレゼントをくれたのだそうです。「あのとき家族みんながイエス様に近づこうと、どれだけがんばったことだろう」と神父様はクリスマスの美しい思い出を語っています。私はこの姿こそ、クリスマスを準備し、福音を生きていく姿ではないかと思います。

クリスマスとは何でしょう？ イエス様が生まれた頃、今のようにクリスマスツリーもデパートのセールもデコレーションケーキも華やかなイルミネーションもありませんでした。いったい、これらはクリスマスとなんどの関係があるのでしょうか？

クリスマスは騒がしいお祭りではありません。静かで神聖な夜です。騒がしく、あわただしい所ではクリスマスの神秘は見つけられないでしょう。クリスマスはもともと貧しく、みすぼらしいものです。赤ん坊、馬小屋、もともと貧しい人々、羊飼いたち、そして権力者を避けて逃げることに、まさにそれが神様に関係することです。

神様が小さくなって下さった。神様が弱くなって下さった。神様がご自身を私たちにくださったのです、その愛を通して。そして「ついてきなさい」と私たちに招いて下さいます。勝利と光あふれる栄光の中ではなく、馬小屋の貧しさの中へと。

神様は貧しい馬小屋の中にも、貧しい愛の私の中にも、貧しい才能の私の中にも、拒んでいる私の中にもいてくださいます。神様がうんと小さくなってくださったのです。神様は私たちと一緒に歩こうとしてくださいます。

「主が私を遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人には視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」(ルカ 4:18-19)

「この聖書の言葉は、今日、あなた方が耳にしたとき、実現した。」(ルカ 4:21)



## 《 住吉教会 2021 》

2021年も昨年につき、これまで私たちにとっての「当たり前」がそうではないことに気付かされる年となりました。さまざまなきごとにより、教会に来ることができない方々もいらしたことを思います。住吉教会の2021年を振り返りました。

### 1月1日（金） 神の母聖マリア

コロナ禍で揺れた2020年も終わり、新しい年を迎えました。例年通り新年ミサが行われ、良き1年となりますようお祈りいたしました。

### 1月10日（日） 新成人の祝福



「主の洗礼の日」の主日ミサの中で、新成人のお祝いが行われました。今年はN.Wさんが成人の仲間入りをされました。神様の愛とご家族の愛を受けられ、生まれたときから住吉教会の皆に見守られて、立派に成長された姿に、信徒一同、大きな喜びに包まれました。

成人式を迎えて

NW

この度は成人の祝福をいただき、誠にありがとうございました。生まれたときから教会とともに過ごしてきた私にとって、ようやく皆様と同じ大人の仲間入りをしたのだと感じております。私が小学生のころからいらっしゃる赤波江神父様をはじめとして、二十歳になるまで支えてくださった教会の皆様、家族には感謝してもしつくないほどの気持ちを抱いています。これからは、二十年間で皆様からいただいた愛情を他の人々に与えられるようにするとともに、社会や教会を支える一員としての自覚を持てるように努めます。

私は現在、大学で法律に関心を持って学んでいます。大学生活は新型コロナウイルスの感染拡大でかつて想像していたものとは違ったものになりました。それでも、私自身が興味を持つ物事について学ぶ機会が与えられていることを大変ありがたく思っています。将来は今学んでいることを活かして、困っている人びとを助けたり問題を解決したりできるような仕事に就きたいと考えております。将来はますます不確実なものになっていますが、神様のお導きを信じ、希望をもって前に進める者になりたいです。まだまだ未熟者ではありますが、日々精進して参りますので、これからもどうぞよろしく願いいたします。



2月17日（水） 灰の水曜日



朝早くに雪がちらつく寒い日、四旬節に入りました。午後7時からのミサ、灰の式に集い、赤波江神父から頭に灰を受けました。「ワクチン接種が始まりましたが、まだまだコロナとの戦いは続きます。毎日の生活の中で自分をより良くする目標をもって四旬節を過ごし、それが実を結ぶ復活祭を迎えましょう。」

2月21日（日） 四旬節第1主日 赤波江神父の黙想のヒント

「そのとき、“霊”はイエスを荒れ野に送り出した。イエスは40日間そこにとどまり、サタンから誘惑を受けられた。」(マルコ 1:12-13)

ここで言う“霊”とは聖霊のことです。聖霊はイエスを荒れ野に送り出し、そこでサタンから誘惑を受けられたわけです。皆さん、今日の聖書の言葉ちょっと怖くないですか？聖霊はイエスをサタンから誘惑を受けさせるために荒れ野に送り出した？聖霊は私たちに望ましいところに導いてくれるのではないのですか？

実は、聖霊は必ずしも私たちが望む安楽な居心地のいいところに連れて行ってくれるわけではないようです。むしろ本当は行きたくないところへ連れて行くことがあるようですね。イエスご自身も本来は十字架の死は望まなかった。本当は逃げたかった。でも「父よ、できることなら、この杯(受難と死)をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに」(マタイ 26:39)この言葉にイエスの思いがよく表されています。人々の救いのためにイエスはそれを御父のみ旨として受け入れたわけですね。

わたしたちも同じで、自分が思い願っていることと反対の方向に事が進んでしまった。そうして本当は望まないところに行ったとき、むしろ新しい世界の発見と新しい自分に気付かれたこともあるのではないのでしょうか。

「知らない世界に出かけてみれば、知らない自分が見えてくる」

皆さん、この四旬節の間自己再発見の旅に出かけましょう。旅といっても実際旅行することではなく、今まで触れたことのなかったものと出会って新しい自分に気付くことです。

(赤波江豊神父)



2月28日（日） 四旬節第2主日 赤波江神父の黙想のヒント

「これはわたしの愛する子」(マルコ 9:7)

今日の福音書の出来事を「主の御変容」と言います。イエスはこれから迫りくる受難を前に三人の弟子にご自分の光輝く姿を見せ、ご自分が真の救い主であることを示された出来事です。その時「これはわたしの愛する子」という声が雲の中から響きました。即ちイエスのご自分が天の御父から愛されているということを強く感じたのです。わたしたちはこの言葉「これはわたしの愛する子」という言葉を、もはや天の御父がイエスに与えた言葉としてではなく、イエスがわたしたち一人一人に与えた言葉として受け取りましょう。

ところで皆さん、「愛する」という言葉を普段どれだけ使いますか。恋愛の意味でよく使われます。でも若いカップルならともかく、家庭ではあまり使わないのではないのでしょうか。そういう

意味で非日常的な言葉ではないでしょうか。でも非日常的でありながらも、実は心のどこかで憧れている言葉、それが愛という言葉です。この心の憧れを表すために愛するという言葉以外に、可愛がる、大切に作る、いとおしむなどのような言葉で表現します。

皆さん、今日のヒントです。この愛をいつも心に感じさせるために、いつも誰かの笑顔を心に思い浮かべてみてください。家族であれ友人であれ、いつも誰かの笑顔を思い浮かべ続けるのです。そうして誰を思い出してもその人の笑顔が心に浮かぶようになったとき、皆さん自身もいつも笑顔に つつまれた人となり、神の愛に満たされた幸せな者となるでしょう。皆さん、ぜひ試してみてください。時間はかかるかもしれませんが。でもきっとできます。

(赤波江豊神父)

### 3月7日(日) 四旬節第3主日 赤波江神父の黙想のヒント

「イエスは何が人間の心の中にあるかをよく知っておられたのである。」(ヨハネ 2:25)

私たちは人間関係のなかでお互いの顔を見ながら話して相手の思いを推察します。そして人の心の中までは見えないとよく言います。でも人の思いは必ず表情に出ます。相手に対して「この人嫌い」という思いで接すると、無意識のうちのその思いは表情に表れ、相手も同じ顔をするようになります。反対に「この人が好きだ」という思いで接すると相手にもその表情は伝わり、相手も同じ顔をするようになります。人間関係は鏡のようなものです。私たちは鏡に向かってほほえめば鏡の中の顔もほほえみます。鏡に向かって嫌な顔をすれば鏡の中の顔も嫌な顔をします。ですから人と接するときの相手の顔は、実は自分の自画像なのです。周囲の人が悪く見えるなら、それは自分の心に問題があり、悪いものを見ようとする心の表れなのです。ですから相手に変わることを要求するのではなく、自分の心を変えなければならぬのです。周囲の人が善人に見えるなら、それは善いものを見ようとする心の表れであり、更にそれを続けなければならぬのです。

「呼ばなかったものは来ない」

今の私たちは全て自分が呼び込んだ結果です。仮に邪悪なことばかり考えて生きていると、やがて同じことを考えている人がすり寄ってきます。このことがやがて犯罪につながります。いつも善良な思いで生きていると、同じ善良な人が近づいてきます。このことが善意の輪を社会に広げることになるのです。人の思いは全て表情に表れるのであり、私たちは心を隠して生きることはできません。今の自分は、今まで自分が思い続けてきたことの結果であり、自分が呼び込んだことの結果です。

「イエスは、何が人間の心の中にあるかをよく知っておられたのである。」しかし私たちは今までよくない思いで生きてきたのなら、今その思いを変えることができます。考えを変えるということは人生を変えるということです。この四旬節の間人生を変えることができます。もし、よくない思いで生きてきたのなら、その思いを善良な思いに変えて明るい表情で新しい人生を歩みだしましょう。そうすれば同じ善良な思いの人たちが近づいてきます。そして希望と幸せを呼び込みましょう。

(赤波江豊神父)

### 3月14日（日）四旬節第4主日 赤波江神父の黙想のヒント

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ 3:16)

皆さん、信じるとはどういうことでしょうか。神様や天国や永遠の命を信じるとか、言葉では分かるがピンとこない。見たことも触れたこともないものをどう信じたらいいのか分からない。でも何かありそうだ、あるに違いない。だから「信じたい」。皆さんこんな思いをもっておられるのではないのでしょうか。

どう信じたらいいのか分からない。でも「信じたい」。これが大事だと思うのです。実は、「信じたい」という思いが「信じること」なのです。即ち、願ったそのときかなえられているのです。イエスご自身嬉しいことを語ってくださいました。「祈り求めるものはすべて既に得られたと信じなさい。」(マルコ 11:24)人を愛したいと願ったとき、既に愛しています。人を赦したいと願ったとき、既に赦しています。癒されたいと願ったとき、癒しは始まっています。しっかりと人生を歩みたいと願ったとき、新しい人生を歩みだしています。

私の好きな典礼聖歌に「キリストはぶどうの木」があります。  
なぜ好きかというと、この歌詞がいいのです。この歌詞はすべて願望で終わっています。

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. キリストはぶどうの木 私はその枝のひとつ 慈しみの雨に洗われ つながっていたい いつの日も</li><li>2. キリストはいのちの泉 私はほりにたたずむ みことばの水に満たされ うるおっていたい いつの日も</li><li>3. キリストはこの世の光 私のこころを照らす 喜びの光をあびて 輝いていた い いつの日も</li><li>4. キリストは父への道 私はその道を歩む 救いのみわざを信じ たどりつきたい いつの日も</li></ol> |
|--|

即ち、キリストにつながりたいと願うことが、既につながっていること。キリストの泉にうるおされたいと願うことが、既にうるおされていること。キリストの光に輝いていたと願うことが、既に輝いていること。父への道であるキリストにたどりつきたいと願うことが、既にたどりついていること。

同じように、キリストの弟子とはどんな人のことを言うのでしょうか。自分はキリストの弟子だと確信したら、もしかしたらそこには少し高慢があるのかも知れません。そうではなく、人間的な弱さ、もろさを身におびながらも、それでもキリストの弟子でありたいと願い続けている人がキリストの弟子ではないのでしょうか。

皆さん、コロナが終息したら大きな声で「キリストはぶどうの木」を歌いましょうね。

(赤波江豊神父)



### 3月21日（日）四旬節第5主日 赤波江神父の黙想のヒント

「キリストは肉において生きておられたとき、激しい叫び声をあげ、涙を流しながら、ご自分を死から救う力のある方に、祈りと願いとをささげ、その畏れ敬う態度のゆえに聞きいれられました。そして完全な者となられたので、御自分に従順であるすべての人々に対して永遠の救いの源となりました。」(ヘブライ人への手紙 5:7-9)

聖書の中でこれほどイエスの苦しみを生々しく描いている箇所は他にありません。なぜこれ

ほど苦しまれたかという「すべての人々に対して永遠の救いの源」となるためでした。どうい  
う意味でしょうか。

この世界には同類の者、同じ性質の者は引き付けあう法則があります。悪いことばかり考  
えている人には、同じことを考えている人が分かります。正しく生きることを願っている人には、  
同じように生きることを願っている人が分かります。同じように大きな苦しみを経験した人には、  
大きな苦しみを経験した人が自然と分かります。その人が多くを語らなくても、黙っていたとし  
ても。そうしてお互い共にいるだけでお互いを癒しあうことができるのです。このことを経験さ  
れた方も多いと思います。癒しの賜物は何も特殊な人が持つのではなく、大きな苦しみを経  
験することによって誰もがもつことができるのです。そういう意味で私たちもイエスと同様、大  
きな苦しみを経験することによって隣人の「救いの源」となることができるのです。

確かに苦しみは避けて生きたい。でもどうしても避けることができないときもあります。それを  
等身大で受け止め、それをステップとして更に生きる力としていきましょう。苦しみにこそ大き  
な意味と価値があります。

「もしこの世が喜びばかりなら、人は決して勇気と忍耐を学ばないでしょう。個性は安らぎや  
静けさの中で生まれるものではありません。試練や苦しみを経験することでのみ魂が鍛えら  
れ洞察力が研ぎ澄まされるのです。世の中はつらいことでいっぱいですが、それに打ち勝つ  
ことも満ちあふれているのです。人の苦しみをやわらげてあげられるかぎり、生きている意味  
はあります。」(ヘレン・ケラー)

(赤波江豊神父)



### 3月28日(日) 受難の主日 赤波江神父の黙想のヒント

「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」(マルコ 15:34)

福音書はマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネから成っていますが、それぞれストーリーも違いま  
すし、食い違っている箇所もあります。マタイの話がヨハネにはなく、ルカの話がマルコにはな  
かったりなど。でもどれが正しくて、どれが間違いかということではありません。弟子たちはそ  
れぞれ自分たちの信仰の目でイエスを描いたのです。私たちもまたそれぞれイエスの見  
方が違います。あるときはイエスの目が厳しく感じられたり、あるときは優しく感じられたりしま  
す。福音書は信仰の書です。科学の書でも歴史の書でもありません。十字架の上におけるイエ  
スの最後の言葉も同じです。マルコとマタイは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てに  
なったのですか」(マタイ 27:46)と言って亡くなり、ルカは「父よ、わたしの霊を御手にゆだね  
ます」(23:46)で終わり、ヨハネは「成し遂げられた」(19:30)と言って息を引き取っていま  
す。これもどれが正しくどれが間違いかという問題ではなく、私たちもまたそれぞれの人生に  
おいて苦しみの中で「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という絶望  
的な叫びをあげ、もう教会なんかいくものかと自暴自棄になったときもあれば、その人生の闇  
のなかで「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」と言ってまた神に立ち返りながらも、生涯の  
最後はやはり今までの人生の喜びも悲しみも全てをよしとして、今までの自分の人生はこの  
時のための準備であったのだ、全ては「成し遂げられた」と言って感謝のうちに神のふとこ  
ろに帰りたいものです。(赤波江豊神父)

### 3月28日（日） 受難の主日(枝の主日)

受難の主日のミサがコンスルタ神父の司式で行われました。昨年コロナ禍で教会のミサが行われませんでした。今年は何とかお祝いすることができました。例年のような枝を手にしての行列はありませんでしたが、信徒一同、神父様の聖水による枝の祝福を頂き、あらためてミサに与り、お祝いできることを感謝致しました。



今日からの聖週間、無事にご復活の主日を迎えることができますように。

### 4月3日（土）聖週間 復活の聖なる徹夜祭

復活徹夜祭のミサがエマニュエル神父の司式によりおこなわれました。

復活徹夜祭の典礼は「光の祭儀」「ことばの典礼」「洗礼と堅信」「感謝の典礼」の4つの部分で構成されています。

今年は、行列時に密になることを避けるため、「光の祭儀」の前半は省略されましたが、復活のろうそくから、聖堂に集う信者のろうそくに光が次々に灯され広がっていきました。



### 4月4日（日）復活の主日 赤波江神父の黙想のヒント

「イエスは死者の中から復活されることになっているという聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかったのである」(ヨハネ 20:9)

死者の中からの復活とは何でしょうか。難しいですね。「二人はまだ理解していなかった」どころか、私たちもまだ理解していないですよ。私もまだ理解していません。まだ死んだことがありませんから！でも次のように考えてみるのも復活信仰へのアプローチになるのではないのでしょうか。

弟子たちがイエスの言葉と行いの意味を理解したのはイエスの死と復活と昇天の後、即ち目に見えない姿となった後でした。イエスの言葉と行いは弟子たちの心に強く焼き付けられました。即ち、イエスの「記憶」があれば弱かった彼らの人生を逆転させ、力強い宣教者へと変貌させたのです。NHKの番組に「逆転人生」というのがありますね！まさに弟子たちの人生のことです。彼らを変えたのはイエスの「記憶」です。

私たちは復活というと、どうしても自分が死んだ後のことをよく考えます。でも私たちはまだ死を経験していない。確かに死の彼方には何か大いなるものがあるに違いないとは信じているが、まだ見ていない。そこで、まだ見ていないものについて考えてばかりいても仕方がない。大事なことはいかに自分の記憶を次の世代に残すかということではないのでしょうか。記憶は人を生かすも、殺すもする。いい記憶を残された人はその記憶を道標(みちしるべ)にまたしっかりと人生を歩みます。反対に悪い記憶を残されたらその人の人生の歩みが止まってしまうかも知れない。

天国も地獄も人の心の中にあり！しかも記憶に残るのはその人の「人柄」だけです。能力や業績はあまり記憶に残りません。優しかったか、誠実であったか、偽りがなかったか、これだけです。この記憶が残された人の道標となり、場合によったら弱かった人たちの人生を逆転、復活させるのです。復活信仰！自分のことより、もっと次の世代のことを考えましょう。

(赤波江豊神父)

#### 4月4日(日)復活の主日のミサ

2年ぶりにお祝いする主の復活の主日のミサがコンスルタ神父の司式により行われました。

この日を待ちわびていた多くの皆さんがミサにあずかり、コロナ禍の中、困難のうちにある多くの方々のことを思い、一日も早く皆が安心して感謝のうちに過ごせるようにとお祈りを捧げました。

主はよみがえられた、アレルヤ！



#### 4月11日(日)復活節第2主日(神のいつくしみの主日)赤波江神父の黙想のヒント

「世に打ち勝つ勝利、それはわたしたちの信仰です」(使徒ヨハネの手紙1、5:4)

パソコンで「しんこう」という言葉を変換するといろいろな漢字が出てきますね。信仰、振興、進行、新興、侵攻、神鋼、親交など。それでは私が「しんこうは、しんこうなり」と言ったら皆さんどんな言葉を連想されますか？私が言いたいのは「信仰は進行なり」なのですね。つまり信仰というものは常に前に進んでいくものでなければならない。私たちを後退させたり、悲観主義に陥らせたりするものは決して信仰とは言えない。悲観主義からは何もいいものは生まれません。プラス思考、前進主義は何事にも、困難の中でも何らかの生きる意味を見出す姿勢を生み出します。ですから信仰とは人生に意味があることを信じることだとも言えるのですね。「世に打ち勝つ勝利」とは何でしょうか。この世に勝利するというより、人生に勝利すること、それは決して何か偉大なことを成し遂げるのではなく、自分の人生に意味を見出した人が人生の勝利者なのですね。

でも皆さん、勝利、勝利とあまり力まないでくださいね。神学生るとき指導司祭が講話の中で、私たちは三つの「気」で行きましょうと話してくれたのを覚えています。まず何事も「元氣」に行きましょう。でもいつでも元氣が出るわけでもない。そういうときは「根氣」よくいきましょう。でも根氣よくやっても落ち込むことも多い。そういうときは「呑氣」にいきましょう。実は呑氣さも一つの信仰なのですね。神を信じる者は基本的に呑氣である必要があります。でも人の苦しみが分からないような鈍感ではなく、全ては神が必ずよくなるよう導いてくださることを信じる「聖なる呑氣さ」でいきましょう。何年後、何十年後の自分がどうなるのか不安な気持ちで生きるのではなく、今日一日歩く道の足元を神が光で照らしてくださることだけを信じながら。

(赤波江豊神父)



#### 4月18日（日）復活節第3主日 赤波江神父の黙想のヒント

「あなたがたに平和があるように」(ルカ 24:36)

復活したイエスは静かです。まるで何事もなかったかのように、まるで受難の苦しみが嘘であったかのように静かに弟子たちに現れます。しかも現れたときの第一声が「あなたがたに平和があるように」です。なぜでしょうか？受難の苦しみのとき弟子たちはイエスを見捨てて逃げて行ってしまいました。あれほど愛していた弟子たちに見捨てられたのなら、復活したときイエスは弟子たちを叱責してもよさそうなものですが、叱責どころか不平不満も一切なく、ただ「あなたがたに平和があるように」です。

受難の夜弟子たちはイエスを見捨てました。しかしイエスは弟子たちを愛し続けていました。弟子たちはイエスを探しませんでした。しかしイエスの方が弟子たちを探して会いに来てくれました。弟子たちはイエスを信じていませんでした。しかし見捨てられたイエスの方が弟子たちを信じ続けていました。受難の夜イエスを見捨てたことは弟子たちの人生最大の失敗であり後悔でした。しかしその人生最大の失敗はかえってイエスの最大の愛を知るきっかけになったのでした。「自分たちはイエスを裏切ったのに、イエスは自分たちを愛して信じ続けてくれた」この体験があれほど弱かった弟子たちを力強い宣教者へと変えたのでした。ここに人を立ち直らせる原点があります。

宣教期間中イエスは徴税人や罪深い女性など多くの罪人と出会いましたが、一度も彼らの過去を問うことはありませんでした。出会った時が恵の時だから。

復活したときも弟子たちの罪深い過去を問うことはありませんでした。出会った時が恵の時だから。

そして私たちにとっても同じで、イエスは私たちの罪深い過去を一切問わない。出会った時が恵の時だから。

「あなたがたに平和があるように」イエスのこの言葉の意味は「私はあなたの過去を責めるようなことは一切しない。出会った時が恵の時だから。今日から希望をもってしっかり生きていきなさい。」

皆さん生きる力が湧いてきましたか。

(赤波江豊神父)

#### 4月25日（日）復活節第4主日 赤波江神父の黙想のヒント

「ナザレの人イエス・キリスト…この方こそ、『あなたがた家を建てる者に捨てられたが、隅の親石となった石』です。」(使徒言行録 4:11)

日本の伝統的な陶器の修復技法に「金継ぎ」があります。通常、陶器は割れてしまったらもう使い物にならないから捨てて新しいものを買うというのが一般ですが、金継ぎは伝統的にものを大事にする日本人の心情から生まれた割れた陶器の修復技法で室町時代に確立されました。当時は茶の湯が盛んで、金継ぎの美しさに魅了された人も多かったようです。金継ぎは割れた陶器を漆で張り合わせて固め、その割れ目に金粉をまぶして完成するわけですが、その美しさは割れる以前の陶器以上に新たな美の世界を生み出す一つの芸術となっています。

キリストは十字架の死により宣教活動も失敗に終わったかのように見え、「家造りの捨てた石」となりましたが、復活という「金継ぎ」によって新しい命の世界をもたらす「隅の親石」となりました。十字架の傷が新しい美の世界を生み出しました。

私たちもそれぞれ過去の十字架の傷を負って生きています。割れた心の傷は決して修復できないと思っています。でもその傷を美しいものに変えることができます。それが心の金継ぎです。憎しみを愛に、絶望を希望に、怒りを赦しに。私たちの人生は誰も取って代わることのできない唯一無二のもの、そして心の金継ぎによって生まれる人生の美しさと価値も唯一無二です。しかも自分しかかもし出すことのできない無類の尊さです。それができるのはキリストだけです。

「イエスの傷とみにくさ、このあらゆる美をはぎ取られた人間の姿の中に秘められた美がある。最も力強い美とは、あらゆるみにくさを包み込み、それを変容させてくれるもの。割れたり欠けたりした陶磁器を漆で密着させ金粉で装飾する金継ぎと呼ばれる修復方法は陶磁器をこれまで以上に美しく変容させる。同様に、十字架へと向かう道のりでも神はイエスの内に人生の中の最もみにくい部分を抱きしめ、うるわしいものにしてくれた。だから我々も自分の生活の中の一番汚い側面や、恥と思うあらゆるものに正面から向き合うことができる。我々は目を見開いてしっかりと自分の姿を見つめ、自分たちも割れた壺だと悟る。しかし我々は神の恵みという芸術性によって抱擁されており、新しい美を発見できる。」(「救いと希望の道」ティモシー・ラドクリフ著)

「最大の金継ぎ師であるキリスト」が私たちの十字架の傷を、心の金継ぎによって唯一無二の美に変えてくださるよう祈りましょう。  
(赤波江豊神父)



## 5月2日(日) 復活節第5主日 赤波江神父の黙想のヒント

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」(ヨハネ 15:5)

イエスのたとえには自然を題材にしたものが多いですね。今日のぶどうの木のたとえの他、種まき(マタイ 13:1-9)、一粒の麦(ヨハネ 12:24)、からし種の木(マルコ 4:30-32)、野の花や空の鳥(マタイ 25-34)など。イエスは大工ヨセフの子ですが、大工仕事に関するたとえは少ない(マタイ 7:24-29 など)。きっと大工仕事は毎日あったわけではなかったのでしょう、ヨセフは一年の多くを農作業をして生計を立てていたと思われます。従ってイエスもヨセフの仕事を手伝っており、その体験から自然を題材にしたたとえ話が生まれたのでしょうか。「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である」(15:1)とイエスは冒頭で語っています。「わたしの父」は天の御父を意味しますが、養父ヨセフもまた実際は農夫であったと思われます。

「わたしにつながっていないさい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が木につながっていないければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながっていないければ、実を結ぶことができない。」(15:4)

時々アスファルトの隙間からきれいな花が咲いている光景を目にします。印象に残っているのは、春のすみれと秋のコスモスです。不思議な光景ですね。どうやって咲いているのでしょうか。きっとアスファルトの隙間に落ちた種が、その隙間から必死で細い根を伸ばしアスファルトの下の土まで

たどり着いて、その土から養分をもらって咲いているのですね。しかもコスモスなど1メートルくらいに生長して大輪の花を咲かせている光景を何度も見たことがあります。

10年くらい前でしょうか。新聞で「ど根性大根」が話題になりました。とある路上のアスファルトの隙間から大根が芽を出したのですが、それが大根として成長するどころか、何とその大根がアスファルトを持ち上げていたのですね。これには皆驚きました。何という生命力。どっぷりと土に根を下ろしていても、場合によったらほとんど栄養のない土で植物として飢餓状態にあるときの方が植物本来の生命力を発揮することもあるようです。

わたしたちも同じで、平和なときより非常に困難なときの方が人間本来の生命力を発揮するようです。神に100パーセントでなくても、細々とでも、クモの糸くらいでも、とにかく何らかの形でつながることが大切なのです。つながってさえすればそこから神は希望という大輪の花を咲かせてくださいます。人は弱いという言い方があります、でも同時に人は強いのです。私たちには自分でも信じられないような生命力が宿っています。しかし多くの場合それを知らないか、信じていないか、信じようとしなかなのです。

皆さん、神とのつながりによって生まれる一人一人の無類の生命力をもっと信じてください。

(赤波江豊神父)

## 5月9日(日) 復活節第6主日 赤波江神父の黙想のヒント



「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」(ヨハネ 15:12)

ヨハネは晩年をギリシャのパトモス島で過ごしましたが、そのころ彼は90歳近くになっていて体が弱り、自分では歩くことができない状態でした。それで毎日曜日信徒たちは彼を車で教会まで運びヨハネはミサをささげていましたが、説教はいつも同じことしか話しませんでした。それは「子たちよ、神はあなたがたを愛しておられる。あなたがたも互いに愛し合いなさい」でした。それでも毎回大勢の信徒が彼のミサに参加していました。ある日一人の信徒が、なぜいつも同じことばかり話すのかと尋ねたところ、ヨハネは「わたしの先生がそう言っていたから」と答えたそうです。

この話はあくまでも言い伝えですが、わたしはこの話は真実ではないかと思えます。ヨハネは弟子たちの中で一番若く、イエスに呼びかけられたときは恐らく14,5歳くらいの少年ではなかったかと思えます。だからあまり意味が分からずついてくるこの少年ヨハネをイエスは可愛がり、分かりやすい言葉で何度も繰り返し「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」と語りかけていたのでしょう。その言葉は少年ヨハネの心に深く刻まれ、福音書だけではなくヨハネの手紙の中でも、まるで体中を循環する血液のように彼の神髄となっています。

ところで、わたしも晩年のヨハネのように毎日曜日同じ説教で済んだら助かるのですが…ヨハネが羨ましいです。

(赤波江豊神父)





### 5月16日（日）主の昇天 赤波江神父の黙想のヒント

「ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。」(使徒言行録 1:11)

イエスと弟子たちとの別れです。イエスは弟子たちを愛していました。だからと言っていつまでも弟子たちと一緒にいることは望みませんでした。そうではなく愛するからこそ別れることを望んだのです。弟子たちはイエスの姿が見えなくなって初めてイエスの言葉と行いの意味が理解できました。そしてイエスが永遠に生きておられることを学びました。

「弟子たちは出かけて行って、いたるところで宣教した。主は彼らとともに働き、彼らの語る言葉が真実であることを、それに伴うしるしによってはっきりとお示しになった。」(マルコ 16:20)

確かに別れて寂しいですね。でも別れるとき寂しいと思うからこそ再会するとき嬉しいのですね。別れが寂しくなかったら再会しても嬉しくないと思います。また誰かと別れるとき、同時にその人を待ち続けている人がいることも忘れないようにしましょう。飛行機が空港を離陸して次第に見えなくなるとき、また船が港を出港して段々小さくなり、そして水平線の彼方に消えていくとき、到着予定地の空港や港ではそれを心待ちにしている人がおり、自分の方に向かってやってくる飛行機や船に向かって大きく手を振り、ついに空港や港で歓喜の握手や抱擁が交わされるのですね。

また親密さには適度な距離が必要なのですね。いつもべったりは誤解や争いを招くことがあります。親しいからと言って相手の心に中にズケズケと入り込むのはやめましょう。また親しいからと言って、必ずしも何もかも話す必要はない。石川啄木にはそのことで苦い思い出がありました。

「打ち明けて 語りて何か損をせし ごとく思ひて 友と別れぬ」(一握の砂)

ある種のことは神と自分だけの場として一生心の中に納めておくのもいいかと思います。

(赤波江豊神父)

### 5月23日（日）聖霊降臨の主日 赤波江神父の黙想のヒント

「わたしたちは、霊の導きに従って生きているなら、霊の導きに従ってまた前進しましょう。」(ガラテアの教会への手紙 5:25)

今から20年ほど前日本が不況のどん底の時代がありました。教会での会話といえば失業、リストラの話ばかりで、これからどうなるのだろうかと皆不安でした。そのようなとき、ひとつの歌が流行りました。坂本九の「明日があるさ」です。これは1963年発表された歌で、自分に自信が持てず、意中の女性に恋を打ち明けることができないにもかかわらず、前向きに生きる男子学生をユーモラスに表現した歌で当時大ヒットしました。その後この歌は2000年に缶コーヒーのCMとして歌われましたが、不況のどん底の中でその前向きな内容から再び大ヒットしました。「明日があるさ、明日がある、若い僕には夢がある…明日がある、明日があるさ」この歌は本来恋愛の歌なのですが、その歌詞と明るいメロディーから、日本中を元気づけてくれました。テレビだけではなく、商店街を歩けば店の奥から聞こえてくるし、学校帰りの小学生たちが歌っていたり、とにかくどこに行っても聞こえてきました。もちろん私も今でも大好きな歌です。

今日は聖霊降臨の主日です。聖霊の命令はただひとつ。前進し続けよ。立ち止まるな。後ろを振り向くな。確かに過ぎた一日は決して帰ってこない。でも明日という日は永遠にわたしたちを訪れてくれる。明日が訪れてくれるということは、今日失敗してもまた明日やり直すチャンスが与えられるし、今日の涙は明日自ら拭ってくれる、今日の傷は明日自ら癒してくれるということです。「明日があるさ」これこそ聖霊のささやきであり、同時に生きるエネルギーを与えてくれます。「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」(5:22)即ち、この聖霊の9つの実りこそはわたしたちを前進させてくれる力であり、わたしたちにいつも若返りを与えてくれます。わたしたちは皆昨日の人ではなく、明日の人ですから。

「明日があるさ、明日がある、若い僕には夢がある」年配の皆さん、この歌詞は自分に関係がないと思っははいけませんよ。青春とは心の若さのことを言います。「青春とは人生のある時期ではなく心の持ち方を言う。年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いるのである」(サムエル・ウルマン)

(赤波江豊神父)

4月28日より、再び緊急事態宣言が発出されたため公開ミサは中止となりました。聖霊降臨の日に、エマニュエル神父より手紙が配信されました。



#### 聖霊降臨の日に エマニュエル神父の手紙

ご無沙汰しております。お元気でいらっしゃいますか。今年の聖霊降臨のお祝いを一緒にできなくて残念でした。その日、わたしは皆さんのために祈りました。わたしたちはイエスの愛のうちにいつもつながっています。緊急事態宣言が延長された今、あなたに励ましの言葉を送りたいと思ってこれを書いています。

復活節第6木曜日の福音書にこう書いてありました。「あなたがたは悲しむが、その悲しみは喜びに変わる」と。

#### ヨハネによる福音書 16:16-20

(そのとき、イエスは弟子たちに言われた。)  
「しばらくすると、あなたがたはもうわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見るようになる。」  
そこで、弟子たちのある者は互いに言った。「『しばらくすると、あなたがたはわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見るようになる』とか、『父のもとに行く』とか言っておられるのは、何のことだろう。」  
また、言った。「『しばらくすると』と言っておられるのは、何のことだろう。何を話しておられるのか分からない。」  
イエスは、彼らが尋ねたがっているのを知って言われた。「『しばらくすると、あなたがたはわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見るようになる』と、わたしが言ったことについて、論じ合っているのか。はっきりしておく。あなたがたは泣いて悲嘆に暮れるが、世は喜ぶ。あなたがたは悲しむが、その悲しみは喜びに変わる。」

イエスが弟子たちから離れて天にあげられ、もう会わなくなると言った時、弟子たちは悲し

くなりました。それは自然な感情でした。その暗い感情にとらわれた弟子たちは、「悲しみが喜びに変わる」というイエスの約束の言葉を、あやうく聞きそこなってしまうところでした。

誰かが不安と悲しみに襲われた時、「明日は晴れる」という励ましの言葉がよく使われます。それぞれの性格によって、その言葉に支えられて元気を出す人もいれば、不安のためにそれを受け入れられない人もいます。弟子たちの場合も、イエスの言葉によって力づけられた弟子もいれば、そうでない弟子もいました。緊急事態宣言が続き、教会に行かない日々、教会の仲間に会えない日々が続くと、信仰生活を続けるのが面倒だなと感じることはありませんか？ 今のように、一人だけにいる時には、私たちはどのように信仰生活を守り育てていけばいいのか迷うものです。聖書の言葉を読んでも分からない、難しく諦めたくなる、そんな時、私たちはどのようにすればいいのでしょうか？

教会は信仰を支える場所なので、その場所に行けなくなったら信仰はなくなるのでしょうか。上の福音書の箇所をもう一度読んだ時、「わたしを見るようになる」という言葉が目にとまりました。弟子たちはイエスを見ることによって喜びを受けます。彼らとイエスとの間に絆が結ばれていることがわかります。それが信仰だと感じます。一人ひとりがイエスにつながっています。だから一人でも信じることはできます。イエスを信じることはすべてです。つまり、今は教会に行けなくても、信仰をもって自分をイエスに結べば、いつもイエスに結ばれることとなります。そしてイエスが約束してくださった喜びに少しずつ入ることができます。

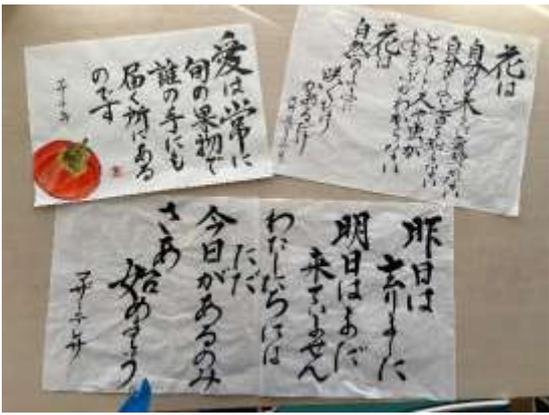
最近のわたしの祈りは「イエスとともにいる喜びを望むこと、味わうこと」です。教会に行くこと、ミサをささげることは喜ばしい恵みです。イエスとの絆のうちに生きることを強めてくれます。またその喜びを表現してくれます。しかし、「イエスとともにいる喜び」をわかるためには、日常生活の中でイエスに従っていかないと、それはどうしてもつかめないのです。

しばらくお会いしていませんが、あなたのイエスとの絆は今どうなっていますか？ イエスが約束してくださった喜びを信じていますか？ お互いに愛しあいなさいという言葉を守っていますか。むずかしいですね。でも、むずかしくても、イエスがともにいてくださることを信じてください。今日、イエスを信じる喜び、イエスとともにいる喜びがわたしたちに与えられるように祈ります。

時がきたらまた教会に集まって、ともに感謝しながらお祝いしましょう。



(エマニュエル ポポン神父)

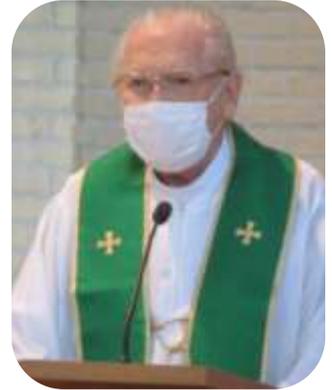


教会の門の外の掲示板に、この春より素敵な「書」を書いてくださっているH・Wさん、道行く人々にやさしい「ことば」の語りかけや、季節感あふれる画が、幸せと愛を運んでくれています。

目に留めてくださった方々に  
神の限りない愛が  
とどまりますように。

## 8月9日 コーナン神父様のお別れの感謝ミサ

ミシェル・コーナン神父様のお別れの感謝ミサが神戸中央教会にて8月9日(月)(神父様の87才のお誕生日)10時30分から、赤波江豊神父様、丹生信雪神学生と共に捧げられ、ミサ後これまで司牧された教会等から参加された方々のご歓談。心尽くしのお誕生日のお祝いをされ、8月11日に昨年尼崎に新設された教区・修道会設立の「ドムス ガラシア」に入居されました。



神父様は1934年フランスでお生まれになり1960年司祭叙階。1962年11月パリ外国宣教会から派遣されて来日されました。「初めて神戸港に入港した時はとても嬉しかった」とミサ後の感謝の言葉の中で述べられました。①1962年11月～1964年11月、②1969年11月～1974年4月、2度にわたり助任として、又近年は③協力司祭として住吉教会と共に歩んで下さいました。いつも穏やかな風に包まれるような笑顔で一人一人に下さったご聖体はほっこりと温かく「心配しなくていいよ。主がいつも共に居てくださるから」と言われているようでした。

神父様はフランスの一青年として北アフリカのアルジェリア戦争に従軍された時、熱砂漠の戦場で繰り返される生か死かの極限に立たされて、人間のむき出しの感情を見たことが司祭職を選ぶ直接の動機とされた事、又助任として住吉に在任中時、日本のカトリック界は第2バチカン公会議(1962～1965)の影響を受けて大きく動き、新しい形態に添うための色々の変革があり、その構想をミサに取り入れ、典礼を信徒の身近なものにする為の努力をおしまれなかった事等が広報の先輩達の手によって1971年の「すみよし復活号」に記されています。(「すみよし」バックナンバーは教会2階図書コーナーにあります)

新しいお住まいは住吉からそんなに遠くありません。又住吉教会にいらして下さるのをお待ちしております。ありがとうございました。

・ ・ 「いかなる時も主とともにありますように」 ・ ・ 神父様のメッセージから



2021年8月9日はコーナン神父様87歳のお誕生日でした。

## 8月15日(日) 聖母の被昇天

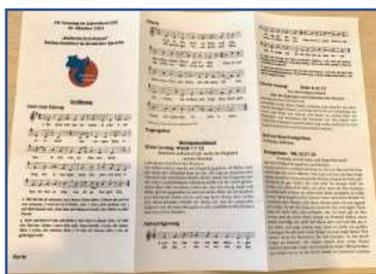


8月15日はカトリックでは、聖母の被昇天のお祝いに捧げられます。同時に日本では終戦記念日、そして死者に思いを寄せるお盆でもあります。また、1549年の8月15日、フランシスコ・ザビエルが日本に上陸したと赤波江神父様から教わりました。ミサでは、天に召された多くの方々のために、そして主がマリア様に与えられたお恵みが私たちにも届きますように赤波江神父様とともにお祈りを捧げました。例年のミサ後のスイカパーティーは、昨年は、コロナ禍のため中止になりましたが、今年はミサに来られた皆様に、ジュースが配られました。一日も早く安心して皆が以前の様に教会に集うことができますように。



## 10月10日(日) ドイツ語ミサはじまる Eucharistiefeier

10月10日日曜日、ミルコ・クイント神父の司式によりドイツ語ミサが始まりました。関西地区のドイツ語圏の方々、ドイツに縁のある日本人を含め22人がミサに与りました。ドイツ語ミサは毎月第2日曜日午後2時からです。



## 10月17日(日) セニョール・デ・ロス・ミラグロス

11時より「セニョール・デ・ロス・ミラグロス」記念ミサをバイリンガルで行いました。

大阪教区のインターナショナルデーの今日、ペルーの信徒の方々と共に我々も参加しました。緊急事態宣言が解除され、主日のミサも再開されましたが、以前のように行列やパーティーはできません。



関西一円から多くのペルー人信徒が集まり、懐かしい故郷のメロディーを口ずさみ、久しぶりの再会を喜びました。朝方まで降り続いた雨はすっかり上がり、爽やかな秋晴れのもと、良き国際交流の場となりました。感謝いたします。

## 11月7日(日) 追悼祈念祭



11月2日の「死者の日」の後の日曜日である今日、「追悼祈念祭」のミサが執り行われました。

受付で配布されたカードに、帰天された家族・友人・恩人・知人の名前が記入され、奉納されました。

共同祈願では、この一年に帰天された住吉教会の兄弟姉妹の名が読み上げられ、またゆかりのすべての死者のために祈りが捧げられました。

## 11月14日(日) 七五三の祝福

母国より戻られ、久しぶりに司式されたエマニュエル神父より4人のお子さんが七五三の祝福を受けました。

エマニュエル神父は、説教の中で「人生は苦難に満ちているけれども、どんなことがあってもイエスの言葉に戻っていくことが大切。そのイエスの言葉の中でゆるぎない掟が『愛すること』です。イエスの言葉は光であり力であり、愛に向かって忍耐しながら、愛を実践し、人生を歩み続けていってください」と話されました。続いて七五三の祝福があり、共同祈願では、愛を実践し慈しんでお子さんたちを育てておられる親御さんたちの「保護者の祈り」と、7歳のお嬢さんが元気なお声で読まれた「子供の祈り」が捧げられました。



七五三おめでとうございます

## 12月12日(日) 堅信式

待降節第3主日に、前田万葉枢機卿の司式のもと  
堅信式が行われました。

5名の若い方が堅信の秘跡を受けられました。



堅信おめでとうございます。



## 《追悼 オマリー神父》

2021年1月8日、長年にわたり私たちを優しくお導き下さったジョン・オマリー神父が帰天されました。神父様の天国での永遠の安息をお祈り致します。



一期一会を学んだオマリー神父様との出会い

TS

それは青い空と白い雲のコントラストがとても美しく感じる2019年8月末の事でした。翌年にはオリンピック開催を控え、国内外の人々が活発に行き交う羽田空港に私はさくらと共に降り立ちました。その目的は、私達の結婚報告とお見舞いを兼ねて、ロヨラハウスにオマリー神父様を訪問するためでした。

私はジョン・オマリー神父様の神戸地区司牧における熱意（特に愛についての教え）や、ミサでの日本語と英語によるバイリンガル説教について、そのご高名を約20年前から伺っておりましたが実際にお会いしたことはありませんでした。そのため、初めてオマリー神父様と対面するにあたり、とても緊張してロヨラハウスに入館したことを今でも思い出します。しかし、神父様にお会いして、その気さくな人柄に私は直ちに安心することができました。面談室では、これまでの神戸での思い出について、私達のこれからの結婚生活についてたくさんアドバイスを頂きました。また、以前からキリスト教信仰について抱えていた多くの疑問を私は神父様にぶつけ、それぞれについて丁寧に答えを頂きました。

そして、対話の最後に、とても印象に残った出来事がありました。それは、オマリー神父様が「イエス様に一緒に祈りましょう」と私たちを誘って下さった時のことです。がっしりとした、大きな両手をテーブルの上で組み、首を深く垂れ、ギュッと目を閉じて祈る神父様の姿が、なぜか私にとって、とても鮮やかに映りました。神について、そして、良い知らせを伝えるために、人々に奉仕するために、はるばる日本に来られ、人生を捧げ尽くした「偉大な人」を私は今、目の前にしているのだと、強烈に感じました。オマリー神父様からは、深く、熱い、信じ切る強い意志が伝わってきました。そこには、温かく大きな包容力を感じ、イエス・キリストは、きっとこのような方であったのだらうと思いました。

面談後、玄関まで見送って下さるオマリー神父様の乗った車イスを押させて頂きました。その車イスが、とても重たく感じたのを覚えています。その重さとは、神父様が人生を我々に捧げ尽くした重さだったのではないかと、私は考えております。

一期一会。私にとってオマリー神父様とは、本当にこの言葉通りの出会いでしたが、私の心の中には、とても大きな存在として今もおられます。そして、私達夫婦が頂いた次の言葉もずっと生き続けることになりました。「何があっても、いつも夫婦と一緒に祈りなさい。」



目次



## 愛の神父様、ジョン・オマリー神父様

SS

長年司祭として、愛の教えを私たちに伝えてくださった神父様。皆様の中にもオマリー神父様と交流があった方が沢山おられると思います。私は、オマリー神父様から「毎日夫婦で祈りの時間を作りなさい」と言われ、それを実行しており、今では夫婦の絆を深める欠かせない良い習慣になっております。

以前、六甲教会に通っていた私は神父様との接点が沢山ありました。幼稚園からお世話になっており、教会学校や中高生、青年のバイブルクラスでは、神父様の愛の言葉に触れることができました。オマリー神父様は神様のことをとても信頼しておられ、祈りの中からイエス様の声を聞き、力強いメッセージを私たちに届けてくださいました。神父様とお話しすると安心感があり自然と笑顔が出てきます。とてもチャームングなところがあり、ジョークがとてもユニークで、誰からも愛される特徴を持っていた神父様だったと思います。

甘いものが大好きでお菓子、ケーキなどはバイブルクラス時、毎回持って行きました。神父様はミサのお説教の時は子供でもわかりやすい内容で、ジョークを交えながらお話ししてください、また日本語と英語で外国人の方でもミサに参加できるようにして下さっていました。

私と夫は神父様がお亡くなりになる数ヶ月前に東京のロヨラハウスに会いに行きました。力強い信仰のことや、愛についてお話ししてくださいました。オマリー神父様は神様から愛され続けて、また祈りによって、それに答え続けてきたと感じました。私にとってオマリー神父様と出会えたことは大きな力となっています。

まだまだ神父様とお話ししたいことは沢山ありましたが、ジョン・オマリー神父様、今までありがとうございました。



目次

## 《各チーム活動報告》

### 典礼チーム

AK

兵庫県において緊急事態宣言が発出され8月22日から約1ヶ月半の間、公開ミサが中止となりました。宣言解除になり10月2日再開され、ミサの準備・後片付け、備品の点検・整備など、典礼チームも日々活動しています。

大阪教区の基本対策により『歌わない。発声をなるべく控える』との項目を守るため、昨年からの聖歌隊は休止を余儀なくされています。

ミサ中、会衆での歌唱は当面控えますが、年明け1月よりマスクの着用や換気、ソーシャルディスタンス等の感染防止対策をとりながら聖歌隊の練習は再開したいと考えております。以前と同じく、毎週火曜日の10時から聖堂で行う予定です。ご興味のある方は、どうぞお気軽にお越しください

併せて、典礼チームの活動をお手伝い頂ける方も随時募集しております。

### 宣教司牧チーム

RK

昨年発行された「すみよし」クリスマス号は、各地区で手分けして郵送したり、直接ご自宅までお届けしたりしました。イースター後には教会に来られない方々にハガキを出しました。

チームとしてはなかなか皆様とお話しする集まりを持ってません。でも現代は携帯電話やメール、リモートで会議や飲み会まで、できてしまう時代です。

教会信者同士、文明の利器を活用しておしゃべりしてみませんか。

### 営繕チーム

TY

クリスマスおめでとうございます。

営繕チームではコロナ禍でチームの集合も難しい中でしたが、皆様のご意見を伺いながら、草木の手入れなど今出来ることに取り組んでいます。

今後も感染拡大等に最大限の注意を払いながら、活動を継続したいと考えています。

### ホームページ委員会

AS

昨年に続いてコロナ禍の今年、信徒の皆様へ教会の動きを伝えるために活動しました。川村委員長をリーダーとして、多くのメンバーの協力を得て、今年も頑張りました。

ホームページアドレス

<http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp>

二次元コードからのアクセスご利用ください。 ➡



## 財務チーム 「2021年をふりかえって」

OK

今年一年を振り返りますと、昨年のコロナウイルス感染拡大に不安感を持ちながら一年が始まったことに比べると、感染対策をとりながらもワクチン接種の普及などによりコロナウイルスと向き合いながら、光が見える中で御降誕祭を迎えることができていると思っています。

財務チームは今年も変わらず粛々と作業を進めてまいりました。ただし、2年を過ぎようとしているコロナ禍の状況下、現在の国内経済状況や緊急事態宣言によるミサのとりやめなど、当教会の収支状況も大きく影響を受けています。

献金は、コロナ禍で生活に困窮されている人々や国内紛争で国を追われ難民生活を余儀なくされている人々など多くの弱い立場にいる人々、また、そういう人々に心を寄せて祈る場としての教会の環境づくり・維持管理など、具体的な形として使われています。信徒の皆様には、現状をご理解いただきたいと思います。

財務チームではご高齢のため、コロナ禍などでミサに与れない信徒の方々のために郵便振替による献金を始めました。お近くで、そのような方々がいらっしゃれば財務チームに是非お声をおかけください。

財務チームはこれからも、変わらず信徒の皆様からお預かりしております献金は「将来への平和と希望の糧」と思いつつ活動してゆきたいと思っています。

## 教会学校

MU

今年も昨年同様、度重なる緊急事態宣言により、思うような活動が出来ない一年でしたが、「子どもたちに会えると元気をもらえる。」それを支えに何とか細々と続けた土曜学校でした。子どもたちはコロナに負けず元気です！！



聖劇の練習風景

## 社会活動チーム コロナ禍での社会活動チームの一年

～住吉教会兄弟姉妹の主イエスへの愛と実践に支えられて～

CK

昨年2月の緊急事態宣言発令以来主日の御ミサが中止になったり、二部制になったりで大変な中でしたが、皆様に支えられ下記の活動ができましたのでご報告いたします。



### 【炊き出し】

中止、お弁当作り、再開、中止、センターで作って小野浜で配食等々を繰り返し、この11月からまた小野浜で調理・配食ができるようになり、少し活気が戻ってきたように思います。ただ、メニューが具たくさん豚汁とご飯に漬物・ゆで卵から具たくさん中華丼・紅生姜・ゆで卵に変わりました。小野浜のテーブルが減りお椀1つしか使えないためです。

1月2日	土	越冬/越年のため休み。	7月3日	土	中華丼（センターで調理、小野浜で配食）
2月6日	土	中止。（1/14～2/28緊急事態宣言発令）	8月7日	日	中華丼（センターで調理、小野浜で配食）
			9月4日	月	中止。（8/20～9/28緊急事態宣言発令）
3月6日	土	センターで弁当作り	10月2日	火	中華丼（センターで調理、小野浜で配食）
4月3日	土	センターで弁当作り。	11月6日	水	中華丼・ゆで卵/紅生姜（小野浜で調理、配食）。
5月1日	土	中止。（4/22～6/19緊急事態宣言発令）	12月4日	木	中華丼・ゆで卵/紅生姜（小野浜で調理、配食）
6月5日	土				

コロナ禍での生活に制約がありながらほぼ同じメンバー6～7人でなんとか取り組めましたが、これも教会(皆様)からの資金援助があつてのこと、感謝です。

新メンバーの参加をお待ちしています❤️

センターへの物資援助(衣類、タオル類、毛布類、サニタリーグッズ、割り箸・紙コップ・石鹸・洗剤類・食料品・アルコール消毒液・マスク等々)や炊き出し募金(17,340円:11/14まで)へのご協力にも感謝です。



### 【船員司牧】

毛糸の帽子を「外出できないので・・・」とたくさん編んで下さる方々のおかげで、7/30(金)に50個シナピス神戸へ届けることができました。

**【円プリオ募金（受精後8週間の胎児の重さが1円玉と同じ事から名付けられ、全国から寄せられた募金で危険な状態の妊婦・出産・赤ちゃんを守る活動を継続）】**

1円玉で1,313円送金できました。

【NPOシャプラニール＝市民による海外協力の会：ステナイ生活 支援】

「書き損じはがきや年賀状、未使用切手・プリカ・テレカ、CD、外貨、ゲームソフト、使用済みインクカートリッジ」年に1回まとめて送り届けています。それをお金に換算した領収書が届きます。昨年は7,917円でしたが、今年は**9,970円**でした。皆様の思いの一滴が大海になっている証、引き続きご協力をお願いします。



【もとやま園支援】

毎月第3日曜にもとやま園の手作りクッキーを販売しています。この一年コロナ禍でミサ中止の時期もありましたが、途切れること無く続けました。ミサゴが有ったときは30袋注文でしたが今は18袋。美味しいと評判のクッキー、今後もよろしくお願ひします。**1袋270円**

【ベルマーク】

住吉小学校に通っている信者のお子さんを通して学校教育施設の助成金のお手伝い。つい見落としがちなお小さなベルマークを生かしましょう！

【シナピス難民移住移動者 食糧支援】

昨年秋にはシナピス工房支援のミニバザーを開き皆様に手作り作品をたくさん購入して頂きましたが、今年はコロナ禍と状況の変化で実施が難しかったので、4月から「食糧支援」を呼びかけさせて頂きました。

ミサ中止期間(4/22～6/19、8/20～9/28)にも心にかけてくださる方々からの食料品を届けることができたことは大きな喜びでした。4/28(水)、5/19(水)、6/9(水)は段ボール1～2箱分でしたが、7月からは段ボール3～4箱分に増えました。

コロナ禍の中、難民移住移動者の方だけではなく生活困窮者の方にも食料品をお分けできると、シナピス事務局の方から感謝のお言葉を頂いています。最近ではイスラム系の方も多く、“豚肉”“豚肉エキス”が入っている物は食べられないとのことですので、そのような配慮も少しできたらいいかな？と思います。

「我が家には余った食料品がないので・・・」と現金で支援をしてくださる方もあり、直接お届けして必要な物資購入に使って頂いています。

可能な限りシナピス難民移動移住者支援も続けますので、ご協力よろしくお願いします。



シナピス大阪の「難民移動移住者、困窮家庭支援」

賞費期限が切れていない日持ちのする食料品(米、パスタ、調味料、缶詰、合わせ調味料、お菓子・・・等々)のご支援を引き続きお願いいたします。

パウロ三木ホールに箱を置いてありますので、お入れください。

## 施設管理チーム チーム長より近況報告

### ～フィリピンでコロナに罹って得た事～

OT

私は今(2021年 11月 29日)コロナに罹り、フィリピンの重症者病棟に入院しています。入院して2週間余りが経ちましたが、幸い快方に向かい、今はほとんど正常な体に戻っています。ここで経験したことを少しお話ししたいと思います。

明日、飛行機で帰国するという日に、保健所から電話がかかりコロナ陽性が告げられました。熱はすぐに38度2分まで上がり、直ちに入院が必要と云うことで、救急車で、**St. LUKE'S Medical Center** (聖路加病院)に運ばれ、重症者病棟に入れられました。ところが病院の規則によると、60歳以上の重症者には、24時間の付き添いが必要とのことです。私の所属する **MRT3** という鉄道プロジェクトは、20人余りの小さなプロジェクトで日本人はほとんどいません。ところが、事務所の29歳の若いフィリピン女性が、付き添いを買って出してくれました。おかげで入院や保険の手続き、医者との通訳(優しい英語に直しての通訳)など随分助かりましたが、なんせ、狭い隔離室に同居で、私のベッドの横の小さなソファで寝て、机もないので地べたに座って書類の整理をしていました。私はびっくりして、うつるからせめて夜だけは帰ってくれと頼みましたが、「私はビタミンを沢山飲んでるし若い。それに神様に祈っているから大丈夫」と言ってききません。日本なら、家族でもガラス越しでしか話さないのに、1カ月の付き合いしかない外国人技術者のために、それもいやいやでなく、快く引き受ける姿に驚きました。ある意味では死と隣り合わせです。私なら、色々と理由を付けて断つただろうと思います。その上司の女性も、その女性を励まし、微に入り細にわたり、やってくれました。フィリピンはカトリック信者が95%で彼女たちもカトリック信者です。私が彼女たちのことを心配すると、「余計なことは考えず自分の回復に専念してください。いつもあなたの回復を祈っています。」と言います。私なら、洪水でおぼれそうな人を見ても、高台から、頑張れ、とか神に祈っている、とか叫ぶのが精いっぱいです。ところが彼女たちは、躊躇せずに飛び込んで溺れている人を助けに行きます。

彼女たちの信仰は、私と違って、本物です。頭をガーンと打たれた気がしました。

その後、自分の事よりも彼女たちにうつらないかが心配で、2日目からは病院から帰ってもらいましたが、その後の連絡メールの最後にはいつも、**You are always in our prayer**, つまりあなたは何時も私たちの祈りの中にいるという意味でしょうか、なんと美しい言葉でしょう。ここには神の息吹が宿っていると感じました。彼女は、私と接触したため、10日間の隔離期間が必要でしたが今は元気になっていると聞きほっとしています。

彼女たちの行動は、決して無知からではなく、普段の仕事において、とても優秀で。又きれいな英語を話すのである程度の教育を受けた人たちだと思います。

困っている人のために、災難をいとわず助けに行くというのは、マザー・テレサか、聖職者の方々

などで、私のような凡人には縁遠い話とと思っていましたが、そうではなく、身近にいっぱい居ると云う事が分かりました。

コロナに罹り、大変な思いをしましたが、同時にそれ以上の素晴らしい人間愛に触れ、かえって良かったと思っています。これも神様のお恵みだと思います。

## 広報チーム

HH

新型コロナウイルスの影響で、昨年から年1回の発行となった「すみよし」。今年も「クリスマス号」で、1年を振り返ります。校正や相談などはメールやラインを使って行い、印刷は外注と、集まって密にならないように、と工夫しながら編集作業を進めてまいりました。

コロナによって昨年以前編集長のSさんが見直して下さった作業工程は、編集にかかわるメンバーがだんだん少なくなっていく中、新たな方法を切り開いて下さった気がいたします。

また、道路沿いの掲示板、玄関ホール・パウロ三木ホールの掲示板の管理などもTさんがこまやかに心配りをしてくださっています。

お互いに得意なこと不得手なこと、補いあいながら、感謝しつつ協力して活動しています。

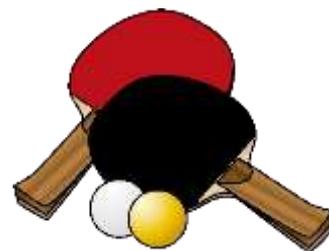


## 卓球のお知らせ

毎週、火曜日と土曜日の午後1時から3時まで、参加自由です。

ラケットなどの備品はありますので、

マスクをしてお集まりください。



## 《「Let It Be」～みこころのままに～》

横浜教区司祭・市岡之俊神父がご講話の際作られた、有名なビートルズの歌「Let It Be」についての解釈と歌詞を日本語に訳されたプリントをいただく機会がありました。

若い方にぜひ読んでいただきたく、横浜教区ご担当者様の許可をいただいて、転載いたします。なお、市岡之俊神父は2020年9月に帰天されたそうです。どうぞお祈りください。

\*\*\*\*\*

横浜教区第36回 典礼研修会 「みことばを生きる共同体」

2017・2・11

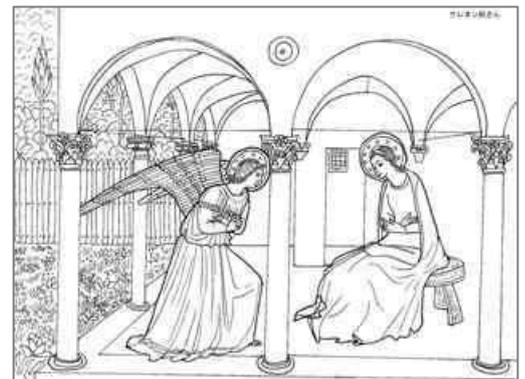
横浜教区司祭 市岡 之俊

お祈り

「マリアは天使に言った。『どうして、そのようなことがありえましようか。私は男の人を知りませんのに。』天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる、神の子と呼ばれる。あなたの従妹のエリザベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。神にできないことは何一つない。」

マリアは言った『わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように』

(ルカによる福音 1章 26-38)



☆ 1960年代、イギリスのポピュラー・ロックグループとして誕生、一世を風靡していた The Beatles も、後期に入ると成熟期を迎え、個々の音楽性も確立していき、グループ解散の危機を迎えました。まさに人生の霊的荒み(すさみ)を迎えているような時に、ポール・マッカートニーは、Let It Be を作詞作曲します。聖母マリアを通して頂く、神様からの霊的慰めの体験、神の知恵の言葉への乾き、またそれを待ち望む姿が見受けられます。

ポール・マッカートニー、ジョージ・ハリスンはカトリック教会、ジョン・レノンは聖公会、リンゴ・スターは聖公会福音派の信徒です。外国の歌はよく、日本語に訳される時に、宗教的意味が抜かれてしまう場合が多いです。この Let It Be も本来の意味が失われているようです。ポール・マッカートニーの思いと信仰に照らし、私的に英語から日本語に訳し直してみました。

苦しみに立たされたことに気づいた時  
聖母マリアが現れて  
知恵の言葉をくれた み心のままに  
暗闇に包まれた時にも  
聖母は目の前にいて  
知恵の言葉をくれた み心のままに  
み心のままに委ねてゆけばよい  
神の知恵のことばはささやく  
主のみ心のままに・・・

When I find myself in times of trouble  
Mother Mary comes to me  
Speaking words of wisdom, let it be  
And in my hour of darkness  
She is standing right in front of me  
Speaking words of wisdom, let it be  
Let it be, let it be, Let it be, let it be  
Whisper words of wisdom, let it be

この世界に生きる 傷ついた人々は  
答えはそこにあると信じた み心のままに  
離れ離れになる日が訪れても  
また会えるチャンスがまだ残っている  
答えはそこにあるのだ み心のままに  
み心のままに歩いてゆこう  
神の知恵の言葉はささやく  
主のみ心のままに・・・

And when the broken hearted people  
Living in the world  
agree...there will be an answer, let it be  
For though they may be parted  
There is still a chance that they will see  
There will be an answer, let it be  
Let it be, let it be, Let it be, let it be  
Whisper words of wisdom, let it be

暗闇に包まれる夜も  
光が私を照らしてくれる  
明日までも輝き続ける み心のままに  
音のざわめきで目が覚めると  
聖母マリアが現れて  
知恵のことばをくれた 主のみ心のままに  
み心のままに歩いてゆこう  
主の知恵の言葉はささやく  
主のみ心のままに・・・

And when the night is cloudy  
There is still a light that shines on me  
Shine on until tomorrow, let it be  
I wake up to the sound of music,  
Mother Mary comes to me  
Speaking words of wisdom, let it be  
Let it be, let it be, Let it be, let it be  
Whisper words of wisdom, let it be



## 《図書紹介》

「天、共に在り」アフガニスタン三十年の闘い  
中村 哲(NHK 出版)

私達が想像するのが難しいアフガニスタンでプロテスタントのクリスチャンとして神から与えられたご自分の力を使って(医師として病人の治療、安全な水の確保のための用水路建設、砂防林のための植林等々の先頭に立って)働かれ、2019年12月4日凶弾に倒れ帰天なさった中村哲医師の本がたくさん出ている中から2013年に書かれ2020年には9刷まで出版されている「天、共に在り」。



私達が身を置く世界とは表面的には違うアフガニスタンのお話ですが、根底に流れているのは、本の「はじめに---縁という共通の恵み」というページで著者が書かれている「現地三十年の体験を通して言えることは、私たちが己の分限を知り、誠実である限り、天の恵みと人のまごころは信頼に足るといことです。」

そして、砂漠の奇跡と記しておられる用水路の建設や砂防林のための植林のページに引用されている詩編が私達にも慰めを与えてくれます。

主はわが牧者なり 我とぼしきことあらじ。

主はわれをみどりの野にふさせ、憩いの<sup>みぎわ</sup>汀に伴いたもう。

たといわれ死の陰の谷をあゆむとも、禍<sup>わざわい</sup>を恐れじ。

汝、我と共にいませばなり。

かならず恵みと哀れみと我にそいきたらん。

(本文記載:詩編第二三篇より抜粋)

8月29日赤波江神父様の黙想のヒントから抜粋

—略— 2019年12月4日アフガニスタンで中村哲医師が凶弾に倒れましたが、彼はアフガニスタンの人々のために生涯をささげ、特に砂漠に水路を引いてアフガニスタンの砂漠を緑の大地に変え、食糧問題を大きく前進させました。—略—残念ながら今アフガニスタンはタリバンが掌握して、国が混乱状態に陥ってしまいました。でも中村医師の努力は無駄にはなっていません。彼が残した水路は混乱した政治状況でも静かに流れ続けて、砂漠に豊かな緑を保たせています。中村医師はプロテスタントの信者でした。神様が私たちの心の水源地の流れを正しく保たせてくださるよう祈るとともに天国の中村医師と共に私達もアフガニスタンの自由と平和のために祈りましょう。

(編集部)

## 《 教会日誌 》

- 1 月 1 日 (金) 新年ミサ (神の母聖マリア・世界平和の日)  
10 日 (日) 新成人の祝福  
17 日 (日) 阪神淡路大震災記念日 (第二主日のミサは阪神淡路大震災で犠牲になられた方のために捧げられた。)
- 2 月 17 日 (水) 灰の水曜日
- 3 月 28 日 (日) 受難の主日 (枝の主日)
- 4 月 1 日 (木) 聖木曜日 (主の晩餐)  
2 日 (金) 聖金曜日 (主の受難)  
3 日 (土) 聖土曜日 (復活徹夜祭)  
4 日 (日) 復活の主日  
23 日 (金) 公開ミサ中止が発表される。(大阪教区新型コロナウイルス感染症にともなう措置 第11次・4月23日発表)
- 5 月 23 日 (日) 聖霊降臨の祝日
- 6 月 22 日 (火) 住吉教会公開ミサ再開される。(大阪教区新型コロナウイルス感染症に伴う措置 第13次通達・6月18日発表)
- 8 月 6-15 日 (金-日) 日本カトリック平和旬間  
9 日 (月) コーナン神父神戸中央教会にて最後のミサ。ドムスガラシアへ  
15 日 (日) 聖母の被昇天  
20 日 (金) 公開ミサ中止が発表される。(大阪教区新型コロナウイルス感染症にともなう措置 第15次・8月18日発表)
- 10 月 3 日 (日) 住吉教会公開ミサ再開される。(大阪教区新型コロナウイルス感染症に伴う措置 第17次・9月29日発表)  
10 日 (日) ドイツ語ミサが始まる。  
17 日 (日) セニョール・デ・ロス・ミラグロス
- 11 月 7 日 (日) 追悼祈念祭ミサ  
14 日 (日) 七五三の祝福  
28 日 (日) 待降節黙想会
- 12 月 12 日 (日) 堅信式  
24 日 (金) 主の降誕 夜半のミサ  
25 日 (土) 主の降誕 日中のミサ



## 《編集後記》

2020年に続き、今年2021年もパンデミックに振り回された一年でした。以前の生活にはなかなか戻れませんが、現状を感謝の気持ちを持って受け入れ、これから先もコロナと共生するすべを模索して行くことになるのでしょうか。その中で教会で皆様とお目にかかり、共にミサにあずかり、また「すみよし」クリスマス号を皆様にお届けできることは大きな喜びです。まだ世界はコロナ禍だけではなく、たくさんの問題を抱えております。一人でも多くの方が主の御降誕を共にお祝いできることを祈るばかりです。

AS

2020年から世界中に蔓延した新型コロナウイルスで私たちの生活様式は、ずいぶんと変わりました。そんな中「ソーシャルディスタンス」という言葉がよく使われましたが、ある方が「距離をとるのは身体であって、実体なのですから、フィジカルディスタンス。実際に離れていても、ソーシャル・社会的交流に距離を置いてはいけません」と言われるのを聞いてなるほど、と思いました。この2年間、実際には会えない家族・友人と繋いでくれたのは言葉だったと思います。電話で、メールで、SNSで、互いに気遣い、思いやる言葉で私たちはなぐさめられていたと思います。

そして、ミサに与ることのできなかつた中、毎週、神父様方からの黙想のヒントやお手紙を読むことができた私たちは、なんと幸せだったことかと、この「すみよし」を編集しながらあらためて感謝の気持ちを持ちました。困難の中で神さまの言葉に立ち返るように、神様の愛を感じられるように、とつづられた言葉がメールで届くたびに励まされました。私たちもこの「すみよし」で、皆様に何か届けることができますようにと願いつつ祈りつつ、編集いたしました。

クリスマスおめでとうございます。

HH

### 「すみよし」第210号

発行日	2021年12月24日
発行責任者	赤波江神父 コンサルタ神父 エマニュエル神父
編集・印刷・発行	広報チーム
発行所	神戸市東灘区住吉宮町2-18-23 カトリック住吉教会
TEL	078-851-2756
FAX	078-842-3380
<a href="http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp">http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp</a>	



目次

# 教会案内



## 【ミサ】

日曜日		9:30
月・火・土曜日		9:00
第1・第3土曜日	(スペイン語)	19:00
第2日曜日	(ドイツ語)	14:00

\* ミサの日時は変更になる場合があります。お問い合わせください。

【講座】 信仰の分かち合い・聖書の分かち合い・Come & See

【教会学校】 対象:小学校1年生～6年生

【社会活動】 野宿者支援の炊出し・神戸入港の外国船乗組員支援・他

\* 信仰講座・教会学校は新型コロナウイルス感染拡大状況に応じて、変更・中止となります。

詳細はカトリック住吉教会へお気軽にお問合せ下さい。

TEL 078-851-2756 FAX 078-842-3380

<http://sumiyoshi.catholic.ne.jp>



スペイン語

Feliz Navidad!!



フェリース ナビダ

韓国語



축  
성 탄  
메리크리스마스  
즐거운 크리스마스 되세요.

チュ ソン タン  
メリークリスマス  
チュコウン クリスマス  
テセヨ

タガログ語

Maligayang Pasko at masaganang bagong taon!



マリガヤン パスコ アト  
マサガナウン バゴン タオン

英語



Merry Christmas

メリー クリスマス

ドイツ語

Frohe Weihnacht



フォーヘ  
ヴァイナフ

フランス語

Joyeux Noël !!



ジョワイユ ノエル

スウェーデン語

God Jul



グアード ジュール

タイ語

สุขสันต์  
วันคริสต์มาส  
ครับ



スクサン ワン  
クリスマス クラップ

ベトナム語

Giáng sinh vui vẻ



ジャング スン ブイ ベー



住吉教会にいらしている各国の方にお国の言葉で「クリスマスおめでとう」とカードを書いていただきました。発音に近いカタカナで読み方を記しておりますので、お隣にそのお国の方がいらしたら、どうぞクリスマスのご挨拶を！  
クリスマスおめでとうございます。